

TAMC

会 報

令和4年4月号

Bulletin of the Tokyo Amateur Magicians Club

April, 2022

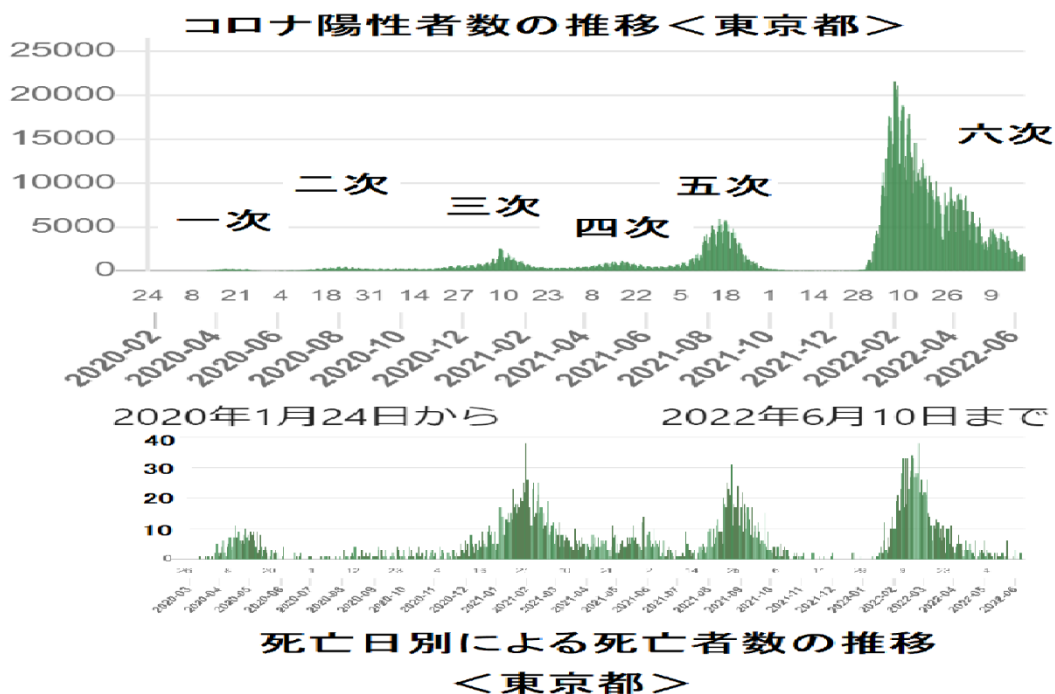
主要内容(令和4年3月)

第1例会(第39回WEB例会) 2022年3月5日(土) 20:00~21:30

会員発表 : 梶田明宏 君 近藤 誠 君 田澤利明 君 佐々木節夫 君 氣賀康夫 君

第2例会(第40回WEB例会) 2022年3月19日(土) 20:00~21:30

会員発表 : 磯部真一 君 大澤 泉 君 柏木直也 君 氣賀康夫 君



2022年5月の活動予定

第1例会 : 祝日の為、休み
第2例会 : 5月19日(木) 18:00 ~ 20:00 実例会+zoom
土曜研修 : 中止

令和4年(2022年)3月の活動記録

- ◆ 第1例会(第39回WEB例会) 3月5日(土) 20:00~21:30 P.3
<動画記録配信> <https://youtu.be/cYwLXDHt5Tk>

司会：三好 勉 君

記録：田澤利明 君 出席者 26 名



1. 会員発表

- 1) 梶田明弘 君 「会員の断捨離で入手したマジック二題」 P.3

① [00:03:17](#) サンタクローンカード(児玉さんから入手:マジックファンタジアの商品)

② [00:06:30](#) Empty Tone(森田さんから入手:セオマジック)

- 2) 近藤 誠 君 近況と白鳥さんの遺品などについて P.6

[00:26:10](#) 昨年コロナ禍で開催した港マジック同好会で演じたマジック

- 3) 田澤利明君 P.8

[00:32:30](#) TAMC ホームページ(会員向け)について

- 4) 佐々木節夫 君 「伊藤正博氏の著書 **MasterCardTable** から」 P.9

① [00:49:15](#) ニック・トロスト作「コートシップ **Courtship**」演技 P.417

② [00:56:09](#) 加藤英夫作「**A-K** パズル」演技 p.424

- 5) 氣賀康夫 君 「氣賀奇術研究室便り」 P.11

[01:05:05](#) 「**Card Magic In a Photo Album**」概要

[01:06:02](#) 「**Card Magic In a Photo Album**」演技 by 柏木直也君

[01:13:04](#) 蘇武牧羊のマジックを例に考え方の解説

[01:22:30](#) 同じ原理による英語 **verion** とカタカナ **version** 紹介解説



- ◆ 第2例会(第40回web例会) 3月19日(土) 20:00~21:30 P.13
<動画記録配信> <https://youtu.be/tniY8lGugcA>

司会：牧原 俊幸 君 記録：田澤利明 君 出席者 24 名

2. 会員発表

- 1) 磯部真一 君 カードマジック二題 P.13

[00:02:32](#) 「ホワイト・プリディクション」 By 高重 翔

[00:06:02](#) 「**QUANTUM DECK**」 By CRAIG PETTY

- 2) 大澤 泉 君 「近況とディアゴスティーニ「**The Magic**」から」 P.15

[00:13:55](#) #15「ミラクルスルーコイン(**Miracle Through Coin**)」演技

[00:14:58](#) #79「コイントレー(**Coin Tray**)」演技

[00:17:18](#) #25 {ジャンプする輪ゴム(**Jumping Rubber Band**)} 演技

[00:18:58](#) #56「クレイジーマンズ・ハンドカフ(**Crazy Man's Handcuffs**)」演技

- 3) 柏木 直也 君 「テンヨーマジックシリーズ」 P.16

[00:21:00](#) 『アニメーションカード』(**Animation Cards**) T-213 2003年 Dan Harlan、近藤博

[00:23:22](#) 『マジックバタフライ』(Magic Butterfly T- 262 2014 年 佐藤 総

[00:26:30](#) Dan Harlan の Card-Toon について

[00:28:10](#) マジックバタフライについて

3) 氣賀康夫 君「氣賀奇術研究室便り」

P. 19

[00:31:36](#) 「Card Magic In a Photo Album」演技と解説

[00:43:29](#) 8→4→2→1(8品目の当てもの)

第1例会 (第39回 WEB 例会)

3月5日 (土) 20:00~21:30

司会：三好 勉 君

記録：田澤利明 君

出席者 30 名

<会員発表>

1. 梶田明弘 君 「会員の断捨離で入手したマジック」

最近の例会では、特に Web (Zoom) 例会では発表者が固定した感があり、何とかたくさんの会員に発表してもらいたいところです。そこで、先月の Web 例会などで、次のようなことを呼びかけました。

新年会のオークションで多くの出品があり、また昨年からは、森田さんが計画的にマジック道具の断捨離を進められており、それらを手に入れた会員も多くいると思います。せっかく入手した道具も、演じる機会がなければ、そのまま忘れお蔵入りして死蔵することになりかねません。そうしたことにならないよう、例会の場を使って、積極的に発表してはどうでしょうか。

けれども、今のところまったく反応はありません。ということで、言い出した自分が率先してやらなければ説得力もないと思い、最近入手したマジックの中から、Zoom で紹介できそうなものを選んで紹介することにしました。



1) サンタクロードカード

新年会で、児玉さんが格安で出品されていたものです。

【現象】

① 3枚のカードがある。

以下のように裏は同じ模様だが、表は1枚だけサンタクロースの絵があり、残りの2枚は白(無地)。



- ② 白いカード裏返してトップに置き、おまじないをかけて表にすると、サンタのカードに変わる。サンタのカードは2枚になる。



- ③ 残りの白いカードを②と同様にすると、やはりサンタのカードに変わる。全体でサンタのカード3枚となる。



- ④ サンタのカード1枚を取り除き2枚とするが、いったん揃えておまじないをかけると、増殖して3枚に戻っている。



- ⑤ もう1枚サンタのカードを取り除くが、揃えておまじないをかけると、やはりサンタのカードは3枚に戻っている。

【解説】

現在、マジックファンタジアにて1650円で販売されている製品ですので、細部の解説は省略します。

製品は葉書サイズの紙に印刷され、ラミネート加工されたものです。上記の現象で分かるように、カードを2枚取り除いても3枚残っているわけですから、全部で5枚のカードがなければいけません。

5枚、または4枚のカードを3枚のカードに見せるハンドリングが誰でも簡単にできるよう、カードの一部にラフ加工がされています。カードの全面ではなく、上または下の半分だけです。つまり、同じ面と面が接していても、ラフの部分同士が接している場合はカードはずれませんが、片方が上下逆だと、ラフ部分とスムーズ面が接する形になるので、カードは容易にずれてしまうわけです。

原理は以上です。興味のある方は製品を入手してください。

<http://magicfan.shop21.makeshop.jp/shopdetail/000000024813/>

2) Empty Tone (エンブティ・トーン) by KISSER

森田さんの断捨離計画「森田のマジックを継承する広場」(Morita's Magic Take-over Parc, 略称: MMTP) にて入手しました。

【現象】

① 1to4

トランプをケースから取り出し、ケースの中が空であることを示します。
ケースの中にコインを1枚入れ、左右に振って音を確認してもらいます。
おまじないを掛けると、箱の中の音がジャラジャラと金属音に代わります。
ケースからコインを取り出すと2枚になっています。
その2枚を再びケースに入れて同じように振るとジャラジャラと音がする。
おまじないをかけて振ると音が大きくなる。
ケースからコインを取り出すと4枚になっている。



② ¥1,500TRICK

五百円硬貨を3枚用意する。
空のケースに硬貨を2枚入れ、残りの1枚は右手に握る。
ケースを左右に振るとジャラジャラと音がするが、おまじないを掛けると音がなくなる。
ケースの中を確認すると五百円硬貨2枚は千円札に両替されている。右手を確認すると、五百円硬貨1枚は百円硬貨5枚に両替されている。

【解説】

セオマジックなどのショップで販売。DVDの解説のみで2,750円(税込み)
ノー・ギミックで、市販のトランプのケースとコイン(とお札)で演ずることが出来ます。
トランプのケース以外でも演じることが出来ます。
上記の演技の外に、以下のバリエーションが紹介されています(セオマジックの商品ページより引用)。

■1to8

「1to4」にさらにアイデアを加えて、コインが8枚まで増えるようにした手順です。

■Exchange1

500円玉をカードケースに入れて振ると、100円玉5枚に両替されます。
箱の中を見ても空っぽです。

■Exchange2

千円札をケースに入れて振ると、500円玉2枚に両替されます。
箱の中は空っぽです。

■Escape

3枚のコインをケースに入れます。それが次々とケースの外に抜けてきます。

最後に3枚のコインが消えて、またケースの中に戻ります。



演技の動画はこちら。

<https://youtu.be/e2kXFXhETws>

2. 近藤 誠 君 「TAMC 会員 故 白鳥さんの遺品を使ったマジック」

皆さん覚えていますか？

茅ヶ崎の研修会 2018 年の開始前に、白鳥さんの遺品の頒布がありました。私はギリギリに行ったのですが、既に、目ぼしい物は、何も残っていませんでした。残っていた物の中に、「壊れた和傘と衣装」がありました。蔵原さんの依頼で使い物にならない物を除いて、残った物のほとんどを持ち帰りました。確か、同様に磯部さんはDVDやビデオを引き取ったと思います。磯部さんはほとんどに目を通したそうで、今では手に入らないようなものも含まれていたと聞きました。希少なビデオを少しずつ残す為に、IT委員長だった時に、倉持会員に依頼し動画の倉庫でもあるマジックキャストを立ち上げました。毎年少しずつ貴重な動画が増えることを期待しています。



さて、本題です。年を取り、だんだん指が動かなくなってきた焦りから、昨年の港マジック同好会の発表会では、指が動くうちやっておこうとカードにするか四ツ玉にするか迷い、四ツ玉にしました。四ツ玉だけではボリュームに欠け、トリらしくないので、和傘を取り入れた構成にしました。

1) 和傘と衣装について

【衣装】はサイズが合わないだろうとダメもとで試着したところ、上着は少しきつめだが着れました。ズボンのウエストはぴったり。ズボンの丈の長さは、白鳥さんはハイヒールを履いていたようでこれもぴったり。残り物に福、ありがたく、使わせていただいています。

【和傘】は、使用するにあたり、壊れた2～3本で1本造り、傘の破れた部分を補修し、足りない部品などは周りにあるもの例えば、ペットボトルのキャップを加工するなど色々工夫もしました。

おかげで、和傘の加工方法や傘がゴムの力で開く仕組みはとても勉強になりました。ゴムの強さを加減すると、傘が瞬時に開くようになりました。懐から出た鳩が羽ばたくようになります。鳩に比べ何倍も大きいので迫力満点です。



2) 四ツ玉とダーク浜氏との出会い

21年前たまたま港区が開催したマジック講習会に参加した際、講師だったダーク浜さんに勧誘され、港マジック同好会に入会し、本格的にマジックを始めました。先輩に三好勲さんがおられ、三好さんの紹介でTAMCを知りました。

ダーク浜さんはTAMCに講師で来たこともあるマジシャンで、氏から初めて習ったマジックが四ツ玉でした。

浜さんはマジシャンでは食えないので、サラリーマンをされていました。その職場の友人の発起で1985年、港マジック同好会を立上げ、浜さんが講師をされていました。

2001年入会早々の8月、浜さんから例会で四ツ玉を渡され、10月の港区の区民祭りで演じてもらうからと模範演技を1回見せられ、練習するように言われました。

1回しか見ていないので手順も記憶にない。マジックも始めたばかりで、四ツ玉の仕組みや見せ方もよく理解していない。記憶を頼りに見よう見まねで練習し、2週間後の例会で演じたところ、演技を見た浜さんは『俺を馬鹿にするのか、そんな手順や演技を教えたつもりはない』と怒り出しました。まともに教えてくれないのでひどい話です。

他の会員もびっくり仰天。なんとか、基本演技と模範演技をしてもらい、次の例会で演技することになりました。

翌日、同時期入会した友人から電話があり模範演技をビデオに撮ってある。こっそり渡すから、それを見て練習しろと言われ、2週間、仕事中也練習しました。その甲斐あって、許可が出て、さらに1か月間特訓して区民祭りで演技をしました。持つべきものは友達で、地獄で仏とはよく言ったものです。

3) ダーク浜さんと初代引田天功氏の出会い

浜さんは学生時代からマジックの上手な高校生で有名。そんな浜さんは、初代引田天功氏に師事し入門。師匠の天功氏からは、模範演技を見せられ、100回練習したら来なさいと言われるそうです。100回練習して師匠の前で演技すると今度は、もう1週間毎日、練習してきなさいと言われたそうで、練習はそれの繰り返し。引田天功氏の教え方は『見て覚える、盗めという教え方』だったそうです。

その後、引田天功氏が亡くなり、ダーク一門に入り、ダーク浜を名乗るようになったそうです。ダーク浜さんが引田天功氏の教え方を引き継いだ弟子だったとすると、私は孫弟子と言ってもいいかもしれませんネ。最近はとても優しくなりました。なぜこんな簡単なことができないのかと、相手の立場で考えるようになりました・・・。

4) もう一つの出会い

そうそう、例会で披露した「カードでのキュウリ切り」は、自称、スピリット百瀬の弟子と言っています。

一回レクチャーを受け、後は自分で習得しました。後日、実際に演技を勝手に見せ、スピリット百瀬さんにキュウリ切りの弟子を名乗ってもいいかと聞いたところ、彼独特のニヒルなほほ笑みを浮かべ、ダメとは言われなかったのですが、色々ご意見があるかもしれませんが、自分ではキュウリ切りの弟子と名乗っています。

百瀬氏とはたった2回の出会いですが、自分の技を習得してきた私の演技を見たり、厚かましい申し出を受け、微笑みました。私も百瀬氏に認めてもらえた自分を知りました。

お互いに通じ合うものがあったということかも知れません。

5) 話が長くなりましたので

TAMCでは家族会や発表会がコロナでなくなりましたが、私のクラブ「港マジック同好会」では昨年、発表会を開催させられました。そう、開催したではなく、**開催させられました**……

皆と協議して、観客は家族、知人、友人に限るという方法で開催することにしました。蓋を開けてみると皆さん勝手に声をかけて200人の会場に60人以上も集まりました。

見に来た観客は各自、コロナ対策（マスクや席を開けるなど）をバッチリしていました。

6) マジックと生き様

特に女性会員の圧力が強いです。TAMCの平均年齢は68.7歳と高かったと思いますが、私のクラブ「港マジック同好会」の平均年齢はそれ以上の75歳越えです。

自分が生きている証みたいところを、舞台上に立ち、化粧して、きれいな衣装を着て、つたないマジックの演技ではあるがそれを通して、家族や孫や知人に何かを示したい、コロナ禍だがメッセージを送りたい、ある人はお礼を言いたいのかもかもしれません。

皆さんは、どうですか……

コロナだからと言って、家で、だらだらしてませんか……

ちゃんと生きていますか……

大げさに言います、日本の経済復興を支えた皆さん、今また、ひと仕事、残っていると思いませんか。

私もコロナに負けないで、生きている姿を示したいので、私の演技の部分だけですが、ビデオを見ていただくと嬉しいです。

動画リンク <https://youtu.be/xAg-zYM2d98>

2. 田澤利明 君

「TAMC ホームページ（会員向け）について」

<https://tamc.site/>



https://tamc.site/member_top/



この会員ページに登録し、ログインされておられる会員数は、全会員71名中の40名に過ぎません。現在、TAMCの会員に役立つ情報が満載ですので、是非、新規登録して訪問ください。

会員専用ページ

右の「会員向けコラム」の中
の「MAGIC 情報」や「データ
ベース」をクリックして
覗いてください。

3. 佐々木節夫 君 「伊藤正博さんの MC 『マスターズカードマジック』 から第 21 回」

1) コートシップ

原題:コートシップ(Courtship:求愛) MC 417 ページ

原典:Card Problems by Nick Trost 1964

準備:デック一組(カードの中にあらかじめ、4 枚の Queen を DKHS(ダイヤ・クラブ・ハート・スペード)の順に取り出せるように、そして 4 枚の King を DKSH(ダイヤ・クラブ・スペード・ハート)順に取り出せるように、それぞれの順を崩さないようにばらばらに入れておくと良い。

手順:

- ①一組のカードデッキから 4 枚の King と 4 枚の Queen を取り出し、4 枚の Queen(DKHS の順)に左側に、右側に 4 枚の King(DKSH の順



に)を表向きに並べる。King4 枚の順番は DKHS ではなく DKSH なので注意してください。

- ②観客に 4 枚の Queen と 4 枚の King を示したのち、表向きのままカードをそろえて、ピドルムープの位置に右手で 8 枚のパケットを持つ。
- ③左手の親指で、右手のカード 1 枚目 2 枚目の King を数え取る。3 枚目の King を取った時に、この 3 枚目の King の下にブレイクを作り、ブレイクを保持したまま、4 枚目の King を取る。少し間を置き観客に良く見せる。

- ④そして、右手の Queen (1 枚目) を左手の親指で数え取る。
この時、ブレイクより上の 2 枚の King を右手の Queen の下にビドルムーブを行う。続いて、2 枚目 3 枚目の Queen を左手に数え取ったら、4 枚目の Queen と下の King 2 枚を 1 枚のようにして左手にもっているポケットの上ののせてしまう。その時のカードは、写真の通りである。



- ⑤ポケットを裏返し、トップの 4 枚を右手に、ボトムの 4 枚を左手に持つ。左手のポケットを返してフェイスを見せ Queen であることを示し、テーブル上に裏返したポケットを置く。
- ⑥右手のポケットを裏返しのまま左手に持ち、「こちらは 4 枚の King です。」と言いながら、右手でトップカードを取り、フェイスを見せてポケットのボトムにまわす。次のトップカードを取り、これも King であることを示して、そのままトップに戻す。このポケットをテーブル上のポケットの上に重ねておく。
- ⑦テーブル上の 8 枚のカードを取り上げ、「このカードを強く押すと King と Queen が一緒になります。」と言いながら、この 8 枚のカードを両手の間に挟んで強く押す。
- ⑧トップから 2 枚ずつペアにして表向きにしてゆくと、それぞれのペアは全部 King と Queen で且つスーツも一致している。



2) A-K パズル (Ace to King Puzzle)

原題: A-K パズル (Ace to King Puzzle) MC 424 ページ

考案: 加藤英夫

準備: デック一組

手順:

ステップ I

- ① 一組のカードデッキから任意のシュートの A から King までの 13 枚のカードを取り出し、それぞれのインデックスが見えるようにリボンスプレッドする。



- ② 13 枚のカードを裏向けにそろえたポケットを右手にビドルムーブの位置に持つ。

- ③ 「A、2、3・・・」と言いながら、トップより1枚ずつ左手に持ってゆく。「7」の時に7枚目のカードを取ると見せて、右手のポケット全部を左親指の付け根に挟み、代わりに右親指と薬指で左手の6枚のカードすべてを取ってくる。これをシークレットムーブという。続けて、「8、9、10、・・・K」と言いながらカードを左手に数え取ってゆく。



- ④ ポケットを弾き、トップカードより順に表替えしてゆくと、Aから順にKまで並んでいる。

ステップⅡ

- ① 「今度は1枚抜いてやりましょう」と言って、Kingを取り除き、12枚のカードをリボン状に広げて見せる。
- ② 12枚のカードを裏向けにそろえたポケットを右手にビドルムーブの位置に持つ。
- ③ トップカードのAだけを表返す
- ④ 「A、2、3・・・」と言いながら、トップより1枚ずつ左手に持ってゆく。この時、Aの上にブレイクを作っておき、「7」の時にブレイクよりも上のカードと、右手のポケット全部を左親指の付け根に挟み、代わりに右親指と薬指で左手のブレイクよりも上の5枚のカードすべてを取ってくるシークレットムーブを行う。続けて、「8、9、10、・・・Q」と言いながらカードを左手に数え取ってゆく。
- ⑤ 右手でボトムのAを抜き出し、トップにおいてポケットを弾く。
- ⑥ トップより順位表を見せてゆくと、Aから順位Qまで並んでいる。

4. 氣賀康夫 君

「氣賀研究室便り」

1) 「写真帳の中のカードマジック」

今回は、数年前に構成した奇術に追加的アイデアを加えて完成度を高めた作品を紹介する。題して「写真帳の中のカードマジック」である。

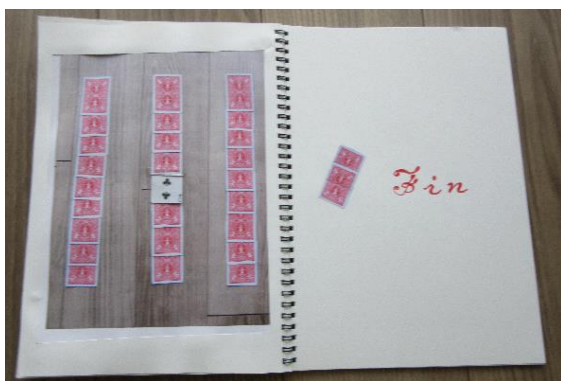
ちなみに、筆者の原案では数枚の写真を台紙に貼り付けたものを用いていた。あるとき中村会員がこの奇術をパワーポイントで多数の観客に見せるアイデアをご紹介くださった。その案は素晴らしい発想であるが、この演出

では選ばれたカードを示す最後の場面で、パワーポイントなら52種類の画像を用意することが可能なので、不思議さが半減するという問題が残された。今回



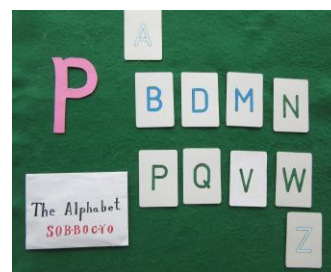
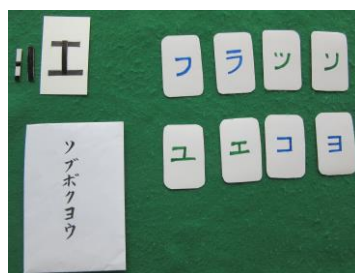
は柏木会員が台紙の代わりにアルバムを使う案をご提案なされた。これは無言のうちに「使う写真はこれで全部！」という印象を与えるという効果が期待され、さらにはアルバムの頁をめくる際にショートカードの原理を活用するという追加的便宜を採用ができるという利点があることがわかった。この改良を用い、更に演出上の完成度を高める手順を構成したので、それを本日、鑑賞いただくこととする。なお、実演は慣れておられる柏木会員にお願いすることとした。詳細な解説は次回に行う予定である。

クライマックス：観客が心に想ったカードが登場する



2) 「蘇武牧羊」

「蘇武牧羊」は柴田直光「奇術種明し」に解説されている当て物奇術であるが、単なる二進法トリックではないことを見落としてはならない。この奇術は漢字というものの性質を100%活用するユニークな演出である。このアイデアは漢字を使わないと実現できないと考えがちであるが、実はそうとは限らない。筆者は「仮名バージョン」と「英文字バージョン」を構成したことがある。



この「蘇武牧羊」は本日の主題「写真帳の中のカードマジック」とは直接関係はないように思えるが、実は、その演出法に共通性があるので、この際取りあげてみることにした次第である。

司会 牧原俊幸 君

記録 田澤利明 君



<会員発表>

1. 磯部真一 君 「リモート環境向き(?)の演目2題」

1) 「ホワイト・プリディクション」 By 高重 翔

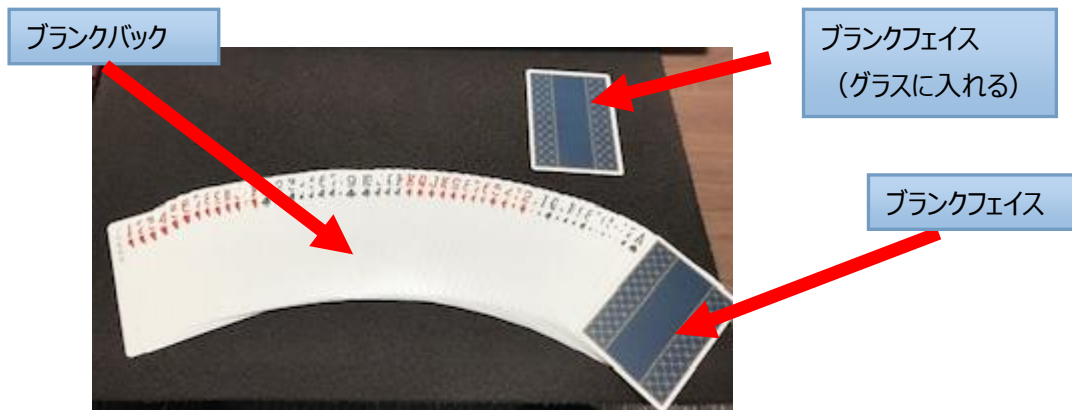
【現象】

- ① 演者は観客に「好きなカード (ここでは♣5とする)」を言ってもらおう。
- ② 持っているデッキには「♣の5は入っていない。」と言い、デッキの表を見せると全て「blank」。
- ③ 演者は傍らのグラスに入っている裏側カードを指さし、「これが♣の5です。」と言って表を見せる。
- ④ 表は「blank」だが、お呪いをかけると一瞬で「♣の5」が出現する。
- ⑤ その後、デッキ全体も印刷されている。



【準備】

- ① 専用デッキを使う。(仕様は以下のとおり)



【解説】

- ① 現象②でデッキ全体がblankであることを示す際に、観客の選んだカードをデックトップに「カル」する。(正確には「カル」とは違うが「裏カル」というイメージ)
- ② 現象③でblankを見せる前にデックトップの「♣の5」をダブルリフトで取り上げ、その後「スナップチェンジ」で出現させる。
- ③ 「スナップチェンジ」を行っている間に、デックトップ以外の下側の部分を「ハーフパス」で反転させる。
- ④ 「♣の5」出現後、デッキ全体が印刷されたことを示して演技終了。

【アドバイス】

「超絶技法」ではありませんが、それなりに練習が必要な技法です。スムーズにできるように練習しておくことをお勧めします。

2) 「QUANTUM DECK」 By CRAIG PETTY

【現象】

- ① 演者はダブルブランクのデッキを取り出す。
- ② 「好きな数字」の場所に「印刷されたカード」が出現すると言って、観客に数字を尋ねる。
- ③ 演者はデッキから一枚ずつ「表・裏」を見せながらテーブルに配っていく。
- ④ 「好きな数字」の場所に「印刷されたカード」が出現する。

【準備】

- ① 専用デッキを使う。
(仕様は以下のとおり)

ダブルブランクを「ラフ&スムーズ加工」を施し「2枚で1ペア」としたカード

A:19組(38枚)



B:9組(18枚)

「印刷されたカード」は B の下に配置する

【準備】

上記のデッキを「B」がトップになるようテーブルの上に置いて演技開始。

【解説】

- ① 「ラフ&スムーズ」加工の1ペアを「1枚」とカウントすることと、ペアを分けてカウントすることで枚数を調整して「印刷されたカード」を「好きな数字」の位置にコントロールすることで実現している。
- ② 「B」側からのディールで対応できる数字は「11～19」であり、「20」以上の場合は「A」側がトップになるようにデッキを持ち上げる際に調整する。
- ③ 「A」側からのディールで対応できる数字は「20～39」である。
- ④ 「11～19」、「20～39」帆範囲外の数字を言われた場合は「A」側から「B」側へ、若しくはその逆にペアのカードを移動させることで対応する。(移動の方法は省略)
- ⑤ 対応可能数はデッキの総数 52 を上限とするのが妥当だが、会話で「11～30」に誘導させることが望ましい。



2. 大澤 泉 君 「デアゴスティーThe Magic シリーズの紹介」

1) 近況

本日（3月19日）は私が勤務する城北学園の高校の卒業式でした。

男子高校生329名が新たな目標に向けて旅立ちました。来賓として壇上から見ておりましたが、48年前の自分自身の思い出が蘇りました。今日は良い天気で、校庭の桜も少し色付き始めておりました。

本当にこの2年間はコロナ禍で生徒たちにとっては辛い日々でした。高校2年生3年生の2年間は、体育祭、文化祭等も全て中止、一番の思い出となるはずの修学旅行もできませんでした。楽しい食事の時間も黙食、授業はオンライン授業も多く、ストレスの溜まる日々だったと思います。近々まん延防止措置も解除されますので、この4月からは生活が正常に戻り、楽しい大学生活を満喫してもらいたいと思います。

昨年の例会で健康年齢の話をし、私は実年齢65歳、健康年齢54歳、11歳若いと言いましたが、今年の誕生日の翌日に人間ドックを受診しました。実年齢は66歳になりましたが、健康年齢は変わらずの54歳で、1歳若返った気持ちです。引き続き健康には留意し、頑張っていきたいと思います。



2) デアゴスティーThe Magic シリーズ

さて、過去のZoom例会でも2度やりましたが、今日もデアゴスティーThe Magic シリーズの紹介をします。現時点で第80号まで発刊され、いよいよ残り20号となりました。内容も盛りだくさんで、ステージマジック、テーブルマジックも沢山紹介されています。このバインダーに20号分入るのですが、ちょうど4つのバインダーが一杯になりました。

本日紹介するのは、次の5品目です。

① 23号 コイン・スルー・ザ・テーブル

名マジシャン アル・ベーカーの手順をアレンジしたバージョンを紹介しています。世界中のマジシャンたちが、様々なアイデアを加えて演じ続けている古典的なマジックです。

2020年12月26日のZoom例会で、コイン・スルー・ザ・テーブルを演じましたが、この時の内容は、氣賀さんが長年研究して作り上げたルーティンでした。この本で紹介されているのは最初の第1段の部分だけです。正直、氣賀さんの作り上げたルーティンの方が面白く優れていると感じています。

② 15号 ミラクルスルーコイン

コインが目の前でガラスの底を通り抜ける、劇的な現象を見せるマジックです。

③ 79号 コイントレイ



トレイの上に乗せた5枚のコインを、相手に渡して握ってもらいます。ところが相手が手を開くと、5枚のコインが7枚に増えている！難しいテクニックは不要ながら、様々なバリエーションを持つお得なマジックです。

④ 25号 ジャンプする輪ゴム

コーヒープレイクにピッタリな、2本の輪ゴムだけを使った、場所を選ばないお手軽マジックの紹介です。難しいテクニックは不要で、小さなお子様にも不思議が伝わる演目です。



⑤ 56号 クレイジーマンズ・ハンドカフ

左手の親指と人差し指に輪ゴムをかけ、それと交差するように右手の親指と人差し指にも輪ゴムをかけます。すると、絶対に通り抜けないはずの2本の輪ゴムが、目の前で見事に通過する！輪ゴムマジックの傑作中の傑作です。

3. 柏木 直也 君 「テンヨーマジックシリーズ…テンヨーおじさん」

今回もテンヨーマジックシリーズということで、私の好きなマジックを2つご紹介いたします。



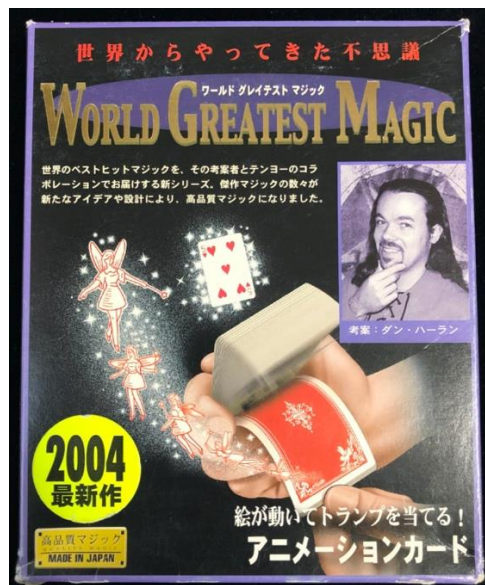
1) 『アニメーションカード』 (Animation Cards) T-213 2003年 Dan Harlan、近藤博

【現象】

好きなトランプの名前を自由にいってもらいます。そのカードは抜いておきます。残りのトランプをパラパラとはじいていくと、なんと裏模様の妖精がアニメのように動き出します。

そして妖精の魔法で相手がいったカードが現れます！

(解説書の説明文より)



Dan Harlan 氏が考案し、1992年に発表するやいなや世界的な大ヒットとなった『Card-

Toon』はパラパラ漫画の原理でトランプの裏に描かれた絵が動いて観客の選んだカードを当てるといふ、全く新しい発想のマジックで、私もその巧妙な原理に大変感激してレパトリーにしているお気に入りのカードマジックです。似たようなマジックはいくつかありましたが、『Card-Toon』はフォースなく、どのカードが選ばれても出すことができるというところが秀逸です。

『Card-Toon』は普通のトランプの裏の柄の上から描いたような線画(Stickman)が動くのですが、テンヨーの近藤博氏は4隅に妖精のイラストを配したオリジナルのトランプを専用にデザインし、そのうちの左下隅の妖精が生命を与えられ動き出すという設定に変更しています。

『Card-Toon』のコミカルな漫画とは違って、夢のあるエレガントなアニメーションになっていると思います。

なお、テンヨーバージョンはブリッジサイズで、子どもにも扱いやすくなっており、娘が小学生の頃に楽しそうに演じていたのを懐かしく思い出します。

前田知洋氏や Peru 氏などがテレビで演じていたように、多くのプロマジシャンがレパトリーにしている、大変インパクトのあるマジックだと思います。

『Card-Toon』はその後、続編の『Card-Toon 2』、ちょっと変化球の『Fart-Toon』が発表されることになります。



2) 『マジックバタフライ』 (Magic Butterfly) T- 262 2014年 佐藤 総

【現象】

空の標本箱をカバーします。いろいろな色の蝶のカードから1枚選んでもらいます。カバーを取ると、標本箱に選ばれた色の蝶が、ピンに留まった状態で出現しています。(パッケージの説明文より)

子どもの頃、昆虫採集用の網を持って、蝶の採集のために野山を駆け回っていた私好みのトリックです。

中央にピンが刺さっている、蓋をした空の標本箱に、蝶がピンに刺さった状態

で出現するという現象はとてもインパクトがあります。しかも4色の蝶が描かれた4枚のカードから観客が1枚選んだ色の蝶が出現します。

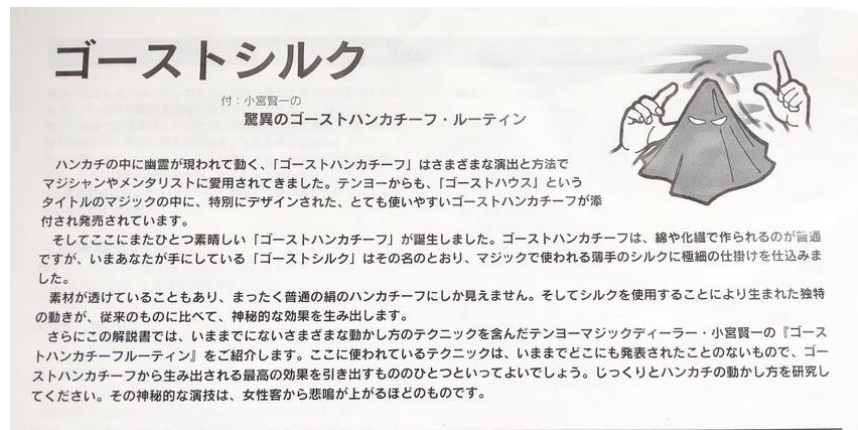
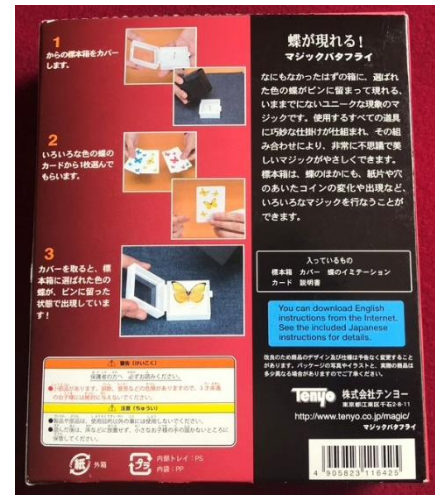
添付の説明書では黒いカバーをかぶせる設定になっていますが、黒いカバーがなんとも怪しくて、しかもカバーをかぶせる理由が見つからなかったため、私にはどうもしっくりきませんでした。今回の実演では私流の改案で演じました。

私の手順は、付属する怪しげなカバーの代わりに黒のシルクを被せて、そこに観客の選んだ青い蝶を導き入れるという設定で行います。蝶を導き入れると、シルクの中で蝶が羽ばたいている動きが見られますが、やがて演者はシルクを押さえ込み、蝶を標本箱に閉じ込めたと宣言します。そしてシルクを取り除き、標本箱に収まっている蝶を示します。

黒いシルクは皆様ご想像の通り、いわゆる「お化けハンカチ (Glорpy)」です。今回使用したのは、ディーラーズセレクションとしてテンヨーがシルクのバージョンを小宮賢一氏の独自の手順（驚異のゴーストハンカチーフ・ルーティン）の解説書とともに発売していた「ゴーストシルク」で、通常のもの比べてシルク独自のフワとした感覚がこの手順にピッタリです。

私の演出は他では見たことがない初公開のもので、今後どこかで見かければ、それは私のパクリでしょう😊

ちなみに、私は蝶類



の中でも特にモルフォ蝶が好きなのですが、このマジックで出現する青い蝶は“アナキシビ
アモルフォ”ではないかと思えます。ただ、赤、黄、緑のものは実在する蝶なのか疑問です。

4. 氣賀康夫 君 「氣賀研究室便り」

「写真帳の中のカードマジック」

＜解説＞

この奇術の基となったのはコネリアスの My First Trick
とお題する奇術に使われている巧妙な原理である。ただし、
原案の手順はたいへん粗削りであったので、氣賀が合理的な
手順を新たに構成した。それに柏木会員が追加的工夫を加え
られた。こうして完成した最終案を前回 ZOOM 例会で柏木
会員に実演いただいたが、今回はそれを詳細に解説する。

解説はレクチャーノートが分かりやすいだろう。田澤会員
が用具のデザインを PDF 化してくださったので、それをプ
リントアウトしてアルバムに貼りつけてご使用いただきたい
。その手間に値する効果的な奇術である。

参考資料：

1. レクチャーノート＜最後のページに添付＞
2. 用具のための PDF ファイル＜別冊として、添付＞



「写真帳の中のカード奇術」(Card Magic in a Photo Album)

氣賀康夫 2022.1.25.

<解説> TAMCでは、会員が持っているだけで使ったことのない奇術の種を新年会で入札やオークションで他の会員に譲るという素晴らしい慣習がある。あるとき蔵原会員がコーネリアスの My First Trick と題する資料を入手されたが、あまりに難解なので、筆者が読解をお引き受けしたことがある。解説書を書いたのが外国人のためか英語が間違いだらけでその内容がわかりにくかったが、何とか解読して理解することができた。そしてその原作者のアイデアにすぐれた点があることに着目し、その後、原案の粗削りな手順をより自然でスムーズにするための工夫を加えて演出を一掃して新しい手順を構成したのは 2016 年のことであった。その後、諸種改良を加えたが、最近、柏木会員のアイデアの優れたところを取り入れさせていただいて、この最終案をまとめることとした。この手順は誠に合理的、実用的かつ効果的であり、多くの会員にお楽しみいただけるものと確信する。

<効果> 「トランプ一組を使ってカード奇術をご覧に入れたいが、あいにくカードを持っていないので、写真を使ってやってみる。」と術者が写真を取り出す。観客は写真を見て心で一枚のカードを選ぶ。それから術者は他の写真を見せながらいろいろな会話をするが、最後に見せる写真には一枚だけ裏向きのカードが写っている。その裏向きのカードが観客の選んだカードだと主張するが、写真では表が見えないので、半信半疑である。そこでその写真を引き抜いて表向きにしてみるとそれは正しく選ばれたカードである。

<用具>

筆者は写真を一枚ずつ厚い台紙に貼り付けて用いていたが、柏木会員がアルバムまたはスケッチブックに各々の写真を貼り付けて準備するという案を提案された。その方法のメリットは、必要な写真だけがアルバムに貼ってあるという印象を与える効果が期待されることであり、誠に優れたアイデアである。

使うのは数枚の写真であるが、その一部には若干の仕掛けをする必要がある。

- A 青裏と赤裏の二組のカードケースの写真(これは赤裏の一組の写真 B に、写真 A の青裏の一組の部分を切り抜いてマジシャンワックスで留めたものである。)
- C 床にばらまかれたカード一組の写真。半分表、半分裏という写真である。(A のページの裏にセットする。)
- D 床にばらまかれた裏向きのカード一組。
- E 床にばらまかれた表向きのカード一組。一部のカードは重なっているために見えない。(これを写真 D の裏にセットする。)
- F ジョーカーを含め一組 54 枚の半分の 27 枚を表向きに9枚ずつ3列に並べた写真。
- G 上記のFを裏から撮影したような 27 枚の裏向きのカードの写真(Fの裏にセットする。)
- H1、I1～H4、I4 ここからの四セットは同じ構造であるが、そこにミニチュアカードを 2 枚ずつセットする。
- H 残りの 27 枚をFと同じように表向きの 9 枚三列に並べた写真であるが、中央に一枚だけ裏向きのカードが見える。これはミニチュアカードである。
- I その 27 枚を裏から撮影したような写真。(IはHの裏にセットする。)カードは裏向きであるが、表向きのミニチュアカードが一枚セットされている。

このHについては中央の下から 5 枚目のカード(4♠)の上にスリットがあり、Iについては中央の列の上から 4 枚目のカードの下にスリットがある。スリットの巾はカードの巾である。このスリットに所定のミニチュアカードをセットする必要があるが、スリットに差し込んだカードが中側に入ってしまうと取り出せなくなることを避けるためにミニチュアカードの縦の長さの 2/3 の大きさの袋を裏面に工作することが肝腎である。

なお、必要な 8 枚のミニチュアカードのための写真も用意してある。



ミニチュアカードの裏表用の写真

4 組のH, Iにセットするミニチュアカードは次のとおりである。

- | | |
|-----------|------------|
| H1 裏向きのQ♥ | I1 表向きの9♦ |
| H2 裏向きの2♥ | I2 表向きの4♦ |
| H3 裏向きのJ♠ | I3 表向きの10♣ |
| H4 裏向きの5♠ | I4 表向きの3♣ |

以上のカードはスリットからカードの縦の長さの 2/3 突き出ているくらい(1/3 が袋に収まっている)が適当である。

J1~4 なお、柏木会員はこのH, I四ページの次の個所に「完」(英語の The End、フランス語の Fin でもよい)を用意することを提案された。このページが目に触れると観客がこれで写真はおしまい！という印象を持つので、種が複数用意されているという疑いを間接的に否定する効果があると考えられた。これも誠に巧みな案である。なお、この四

ページの裏面のK1~4はGと同じ写真を貼っておくのが自然である。

<方法>

この奇術ではアルバムの各ページの示し方と台詞が大切である。それによって奇術の効果が発揮されることとなる。吟味したセリフを以下に紹介する。

1. まず観客に「これからご覧に入れるマジックは、本来は、一組のカードを使って演ずるのが正式なのですが、今日はあいにくカードの持ち合わせがありません。しかし、以前実演の際に撮影していただいた写真を持っていますので、その写真を用いてそのカードマジックを実演してみたいと思います。」と話を始める。
2. そしてアルバムを紹介し、ページを開いてまず写真 A を示す。そして「今ではデパートでパイシクルという商標のトランプを 800 円くらいで売っていますが、パイシクルには裏模様が青と赤との二組がセットになっています。お客様は青と赤とどちらのトランプをお好みですか？」と質問する。これはどうでもよいような話題であるが、この話が実は後のセリフのための伏線になっている。



写真A



写真 B

ここで観客が「青」というか「赤」というかによって術者の話が二つに分岐する。

まず、「青」と言われた場合には「そうですね、それではお好みの青のトランプを今日のお手伝いのお礼と

してお土産に差しあげることにはいたしましょう。」と言い、写真から青のカードの部分をペロリと剥がして、観客に手渡す。

次に、観客が「赤」言った場合であるが、そのときには、「わかりました。お客様がお選びの赤のトランプで実演をすることにいたします。」と言うだけでよい。

この写真は写真 B の上に写真Aの青のカードケースの部分を切り抜いてマジシャンズワックス(または両面テープの接着面を少し弱めたものを用いる。)でつけておいたものである。

3. 「この赤裏のカード一組を紙袋に入れてよく振り混ぜておいてからその中身を床にばらまくことにいたします。」と言い、写真Cを示す。



写真C

「この写真にはジョーカーを含めて合計54枚のカードが写っていますが、約半分のカードは裏向きになっていると思います。それでは、この写真で表が見えているカードの中からジョーカー以外の普通のカードを一枚お選びになり、その名前を頭で覚えておいてください。」と願います。このとき観客が選べるカードは約26枚ある印象であるが、実はこの写真が誠に巧妙に作られており、実は選ぶことができるのは次の8枚のどれかに限定される。そのことを観客は知らない。

2♥、3♣、4♦、5♠、9♦、10♠、J♠、Q♥

この8枚は①赤か黒 ②大きいカードか小さいカードか ③桃組(中国で♥を紅桃、♠を黒桃と呼ぶことがあるという。)か、非桃組(♦か♣)か の三分類で特定化ができるように企画されていることに注目いただきたい。そのことは演者が知っていれば十分であり、観客は知らなくていいのである。

4. 「ここで、実際のトランプで実演の場合には、カードを全部裏返しにします。さて、お客様が52枚の中からどういうカードをお選びになられたか、私には皆目見当がつきません。しかし、次の写真を見るとお選びのカードの場所についてはおおよその見当がつかます。」といい、写真Dを開いてそれを見せる準備をしつつ「お客様のカードは赤のカードだったと思いますが、いかがですか？」と問いかける。



写真D



写真E

ここで観客の答えは二つに分岐する。「そうです、赤です。」という場合には、それが当然であるという顔をして、そのまま手順を先に進める。

次に「いえ、赤ではありません。」というケースであるが、そのときは間髪入れずに手にしている写真Dをよく見せて「いえいえ、このとおり、私が申し上げているのは裏模様が赤だという意味です。」とうそぶく。この巧妙な誘導尋問が自然に聞こえるように、写真Dをすぐ見せるということが大切でポイントである。

5. そして「この写真にはお客様のお選びのカードが見えているのですが、おわかりでしょうか。裏向きですので、それがどれだかがわからないかもしれません。でも、私にはそれがわかります。多分このカードだと思います。」とうそぶき、写真に写っている裏向きのカードの一枚を指さす。そして、「それではカードがよく見えるように、カード全部を表向きにいたしましょう。」と言う。そして写真Eを示して、次のようにセリフを続ける。「この写真は一組54枚のカードを全部表向きにしたところを撮影した写真です。ただしカードが一部重なっているところがありますので、見えていないカードも若干はあります。いかがですか、お選びのカードは見えていますでしょうか。」と聞く。観客は写真をよく見て「見える。」と応えるか、「見えない。」と応えるかこれも半々である。ところがこのとき術者にはこの反応によって観客のカードが小さいカード(2, 3, 4, 5)か大きいカード(9, 10, J, Q)かがわかる仕掛けになっている。すなわち「ある。」なら大きいカード、「ない」なら小さいカードである。なぜか？この写真Eには2♥、3♣、4♦、5♠は写っておらず、9♦、K♣、J♠、Q♥だけが写っているからである。

6. さて、以上の巧妙な問答のお陰で、術者は観客が選んだカードが赤か黒か、大きいカードが小さいカードかがわかってしまったのである。

A(桃組) B(非桃組)

| | | |
|----|-----|-----|
| 赤大 | Q♥、 | 9♦ |
| 赤小 | 2♥、 | 4♦ |
| 黒大 | J♣、 | 10♠ |
| 黒小 | 5♠、 | 3♣ |

ここで、この組み合わせでは、2枚のペアについて、一方のカードが♥か♠になっていることに注目いただきたい。可能性は桃組A(♥、♠) or 非桃組 B(♦、♣)という二通りに限定されることになる。「いまご覧になった写真ではカードの枚数が多すぎて、一部のカードが重なってよく見えなかったと思います。確かに一組54枚全部では枚数が多すぎますね。それでは、一組を半分ずつに分けて調べることにいたしましょう。54の半分はいくつになりますか？」と質問する。答えは「27」である。そこで写真Fを見せる。



写真F



写真G

「サン、ク、27！ですから9枚ずつ三列にカードを並べてみました。これで枚数が27枚であり、丁度一組54枚の半分です。この写真では重なって見えないようなカードは一枚もありません。ここで、お客様のカードがこの27枚の写真に含まれているかどうかは確率的に丁度半々ということになりますが、私はこの中にお客様のお選びのカードはないと断定いたします。というのは残りのあと27枚の中にお客様のカードがあると確信するからであります。では、念のためお確かめください。」と言う。

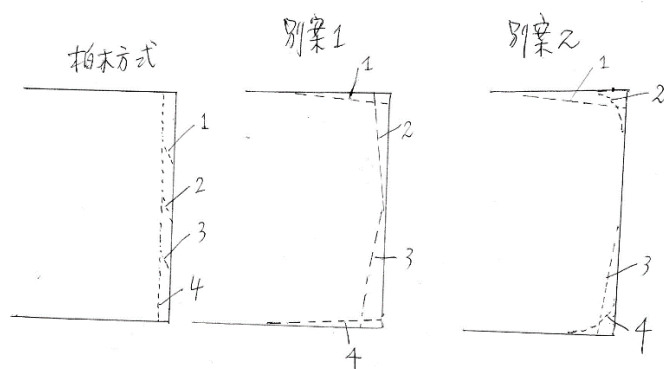
ちなみに、この写真Fには選んだカードはないようにデザインされている。

「確かに選んだカードはありません。」と観客が納得したら、次のように会話を続ける。

7. 「それでは残りの27枚をご覧にいれましょう。この27枚の中には必ずお客様がお選びのカードがあるはずです。」と言い、ここで術者は写真H1~H4の4ページの中から、観客の選らんだカードのミニチュアがセットされているページを開く。ちなみに準備されているページには次のカードがA or Bでセットされている。

H1、I1 = 赤大、 Q♥、 9♦
 H2、I2 = 赤小、 2♥、 4♦
 H3、I3 = 黒大、 J♠、 10♣
 H4、I4 = 黒小 5♠、 3♣

術者はカードの色と数値の大小を知っているから、正しいページを選ぶことは簡単なはずである。ただし、この瞬間にはまだ術者は選ばれたカードを知らない状態にある。このとき一瞬で躊躇なく正しいページを開くことができるようにする工夫としては、アルバムの所定のページに「ショートカード」、あるいは「ワイドカード」の仕掛けをしておくのが賢明である。これも柏木会員の案である。所定のページを躊躇なく開くためのショートカードの作り方を次の図で参照いただきたい。この工作には何種類か案がありえるので、動作のやりやすい方法を選ぶのが賢いであろう。

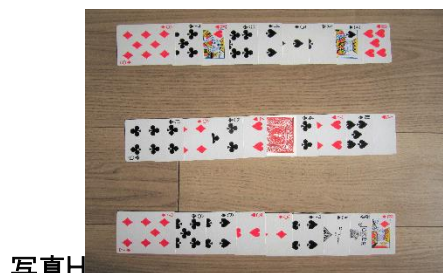


なお、この H1=H4 の 4 ページの右下隅に小さなペンシルドットをつけておくことをお勧めする。これにはページをめくるときのミス回避する役割がある。

H1 赤 .
 H2 赤 ..
 H3 黒 .
 H4 黒 ..

なお、アルバムの綴じ方によってはショートカードが精密に働かないケースもありえるので、そのときには別の工夫も必要となることもあろう。そもそもH1—I1はFのすぐ次のページだから目印は要らないだろう。残り三か所にメモや葉を挟んでおくとか他の方法を考慮する余地もあろう。

8. 正しい写真Hのページを開いたら、「先ほどの27枚のなかにお客様のカードが無かったということは、この残りの27枚の中に必ずお客様のカードがあるということの意味します。そこで、私はあらかじめ『これ！』と思うカードを探してその一枚だけを裏向きにしておきました。」と言う。なるほど、見ると表向きのカード27枚の中央付近の位置に一枚だけ裏向きのカードが見える。そして、観客は他の26枚の中には選んだカードがないことを確認するだろう。



写真H



写真I

表向きのカードが

セットされる前の写真

9. そこで「では、確かめましょう。お客様は、残る26枚の中のご自分のカードがないとお認めと思いますが、お客様が最初にお選びになったのは何のカードでしたか。」と問いかける。この答え聞いて、術者は初めて観客のカードを知ることになる。

10. ここで次のように演出を進める。

「そうです。この表向きのカードの中にはお選びのカードがなく、真ん中に一枚だけ私が裏向きにしておいたカードが見えますね。それがお客様のお選びのカードに間違いがないと思います。以上で私の不思議なマジックは終わりです。ありがとうございました。」と言う。

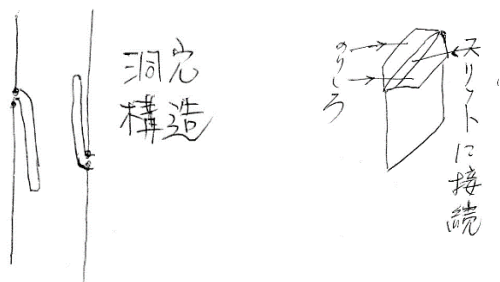
この話を聞いても観客は十分納得せず、半信半疑で、欲求不満の状況に置かれる。そこで、「この裏向きのカードの表をご覧ください？ そうですか、困りましたね。このカードは写真ですから……しかし、お客様がどうしてもご覧になりたいとおっしゃるのでしたら、何とかお見せすることにいたしましょう。ただし、このカードの表を確かめられると、お客様は今夜眠れなくかもしれません。それでもよろしいでしょうか？ それでもご覧になりたい？ わかりました。それでは表をご覧ください。」と言う。

11. 術者にとって大切なのはカードの印である。選ばれたカードが桃組か非桃組かを峻別し、それが「桃組」の場合には中央の裏向きのミニチュアカードがそのものである。そこで、その裏向きのカードをそのまま上に引き抜いて観客の手の平の上に裏向きに乗せる。そしてそれを観客の手で表向きにしてみようとそれは正に選んだカードそのものである。12. 一方、最後に選ばれたカードが「非桃組」の場合であるが、そのときは写真Hで長さの $\frac{2}{3}$ が飛び出している裏向きのカードを指で下方向に押し下げて、飛び出している長さが $\frac{2}{3}$ から $\frac{1}{3}$ になるようにする。それからページの裏を返して、I面を堂々と示す。そこには裏向きのカードが26枚見えていて、中央付近に表向きのカードが下に突き出して見えている。そこで術者はこのカードを引き抜いてそれを観客の手の平に表向きに置く。それは正に選んだカードそのものである。

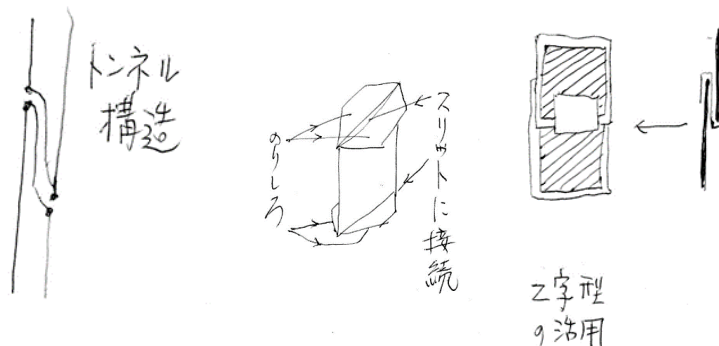
13. 最後に「写真の中のカードマジックはこれで終わりですが、お客様がトランプ一組の中からご自分だけにしかわからないように一枚のカードをお選びになったと思います。そして他のお客様も私も、お選びのカードを知る由もない状況にありましたが、最後にはその一枚だけがなぜか裏向きになって登場することになりました。これはたいへん不思議な現象であり、私にもその仕組みがよくわかりません。」と語る。そして以上の演技が終わるとミニチュアカードが観客の手に残る。勿論それを回収することはできるが、これは観客に記念品としてプレゼントする方が気がきいている。ミニチュアカードの補給にはさほど手間もコストがかからないし、プレゼントされた観客はこれを材料にこの奇術の話をいろいろなところで語り続けることが期待されるからである。

注<H~Iの仕掛け作り>

H~Iの四つのセットには同じ構造の工作を行う必要がある。それは表裏の中央の列のスリットの部分である。ここでの基本案では、スリットにミニチュアカードが収まる長さがミニチュアカードの長さの $\frac{2}{3}$ の深さの袋をつけておくという案をご提案した。この袋構造はいわば洞穴であるが、その目的はミニチュアカードがスリットの中に入ってしまう取り出すのに苦心するというトラブルを回避することである。(図参照)



ところで柏木会員はこのHととの間に巧妙な仕掛けを施して、H面の裏向きのカードを指で押し下げると、それに連動して、裏の面のスリットから表向きでミニチュアカードがずるずると出て来るという工夫を行った。この演出はなかなか効果的で好評であったが、その工作はたいへん難しいものであった。筆者は同じ目的を果たすより易しい方法を考案し工作を試みた。それは一口で言うと、表のHのスリットと裏のIのスリットとに洞穴ではなくチューブ状のトンネルを工作するという考え方である。このトンネルは幅がミニチュアカードの巾より 2~3mm程度狭く、長さがだいたいミニチュアカードの長さより若干長い程度のものである。葉書程度の厚さの紙でZ字状のものを作り、それでミニチュア二枚を固定する。(図参照)これをトンネルにセットするという案である。



セットされた状態ではH面の裏向きのミニチュアカードは長さの 2/3 程度出ているが、I面では下側のミニチュアカードが 1mmほどスリットから出ている(表向きだがインデックスやピップが出ないことが大切)のが最適である。これは演出上の+α をもたらずが工作がたいへん難しく、ミニチュアカードのセットも微妙である。(しくじると裏のカードがスムーズに出て来ないというトラブルに見舞われる。)この興味深い案を採用するかどうかは演者の判断のお任せすることとしたい。